

REPORT

国際人形劇フェス 仏シャルルビル＝メジェールで感じた世界の現状とトレンド

9月16日から24日までの9日間にわたってフランスのシャルルビル＝メジェールで催された「Le Festival Mondial des Théâtres de Marionnettes (国際人形劇フェスティバル)」に行ってきました。1961年に始まり2009年からは隔年で開かれているこのフェスティバルには、前回の2015年には250(公式なので実際はもっとも多い)を超える劇団が上演し、約17万人が訪れました。日本最大の人形劇フェスティバル「いいだ人形劇フェスタ」が6日間で約4万人の動員ですから、まさに世界最大の人形劇フェスティバルです。

2009年から5回連続で観劇していますが、今回は地元フランスの劇団が圧倒的に多く、東欧、アジアの劇団が少なかったです。その原因は、ディレクターが代わったためとも言われています。毎回フェスティバルの2〜3か月前にサイト上でプログラムが公開され、私はフランス語と英語の作品紹介と1枚の写真だけ見てチケットを予約するという「当てずっぽう」な作品選びをしているので、ほんとに全体を見ているのかはなはだ心細いのですが、以下のような傾向を感じました。(作品タイトルはフランス語)

①人形と役者、影絵、オブジェクト、ダンスなどを組み合わせた総合的な表現が成熟してきた。Blair Thomas & Co. (アメリカ)の「Moby-Dick」やCompagnie des Singes Hurlleurs & Mémoires d'Avenir (フランス&モロッコ)の「Le Soldat Antoine」、Katkatha Puppet Arts Trust (インド)の「Mahabharata」。

②きちんと構成された脚本で緻密に人形を動かした「物語」を演じる、ある種の古典的回帰とも言える作品が観客の高い評価を得ている。Silencio Blanco (チリ)の「Chiflón, le silence du charbon」(=今回の私のベスト)やHop Signor Puppet Theater (ギリシャ)の「Giraffe」。

③AV機器(特にカメラとプロジェクター)を使った表現は視点の多数化、小さい人形の緻密な表現の拡大表現というところに落ち着きを見せてきた。また、マッピングも効果を計算されたものになっている。TJP CDN d'Alsace Strasbourg & Renaud Herbin (フランス)の「Open the owl」。

④古典的なパンチ劇(ギエヨール、ブルチネラ)は依然として強い人気。

そのほか、紙のような素材の人形をうまく使ってテンポの良いOmbres Folles (カナダ)の「Les Routes ignorées」、粘土を素材に二人の女性の掛け合いが楽しいLe vent des Forges (フランス)の「Brut」、ギミック満載のLa Controverse (フランス)の「Les Maîtres du Monde」などが心に残りました。また日本からは地元知立の山車からくりが「一の谷合戦」で上演参加。大きな注目を集めていました。

愛知人形劇センター 副理事長 たかはしいちげん



九代玉屋庄兵衛創作「からす天狗」

晩秋から春までは冬眠の山車、からくり人形

秋10月、祭りが終わると、山車、からくり人形は山車蔵(倉庫と呼ぶところもあり)にしまわれ、次の年の祭りまで長い眠りに着きます。

冬を越し、3月終わり近くの土、日曜日になってやっと半田市の乙川祭りが行われます。木彫刻、幕、塗りなど立派な装飾の山車4台が曳出され、その中2台にからくり人形が載っています。三番叟が舞われ、乱杭渡りの妙技の披露や歴史上の人物役行者(えんぎょうじゃ)の微笑ましい話を人形が演じます。同じ頃上野間祭りがあり、4月、からくり人形が一せいに目を覚ましたかのように各地で春祭りが始まり、季節は移ってゆくのです。

世界から注目されているからくり人形と山車、祭り

世界各国の、山車からくり人形を見た人々は一様に目を丸くして驚き、感動して、日本への新鮮な関心と愛着を寄せて下さいました。「繊細で緻密な技術による日本の伝統とハイテクが共存した素晴らしい芸術」と言われます。ついこの9月にフランスのシャルルビル＝メジェール

からくり人形の載る山車が見られる祭り(冬)

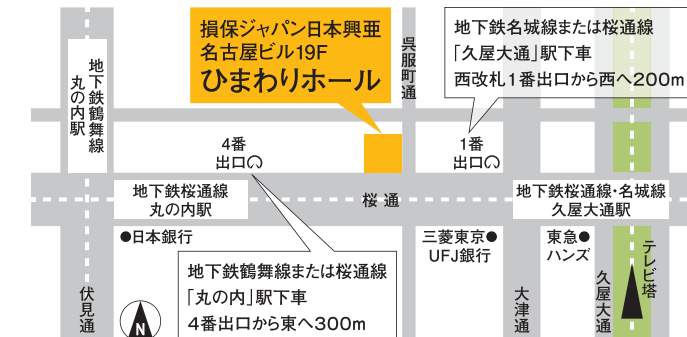
*…からくり人形の載る山車数/山車数

祭りの名称	日程(11月～翌年3月)	場所	人形の演技	*
乙川祭り	3月第3土・日曜	乙川八幡社、若宮神社	三番叟、乱杭渡り他	2/4
上野間祭り	3月末または4月初めの土、日曜	上野間神社	人形浄瑠璃芝居 越智組、四島組	2/2

一年間通じていつでもからくり人形・山車の見られる施設

施設名	場所・内容	お問い合わせ
犬山どんでん館	犬山祭り中本町、名栗町、下本町 鍛冶屋町の山車と人形、犬山祭りビデオ	0568-65-1728
犬山「からくり展示館」(犬山文化資料館別館)	九代玉屋庄兵衛を当主とする玉屋家の制作したからくり人形の展示、実演	0568-62-4802
飛騨高山まつりの森ミュージアム	高山祭りすべての屋台・からくり人形のレプリカ展示と実演	0577-37-1000

*上記以外にもあり。お問い合わせはsenday@ams.odn.ne.jp 千田まで



Attention please!

中部日本の山車とからくり人形



下半田祭り山車とザックドム



からくり人形スペイン公演



知立からくり人形フランス公演 (撮影:高橋一元)

世界人形劇祭で知立市の知立からくり保存会が人形芝居「一の谷合戦」を公演したところ、全4公演満席で、好奇心一杯の観客が人形や舞台装置を見学しに押し寄せました。

平成27年のスペイン、サン・セバスチャンでのウニマ世界人形劇フェスティバルには、九代玉屋庄兵衛一座が「からす天狗」を8回公演し、大好評でした。

最近では海外からからくり人形を訪ねて来る人も増えてきました。ザックドムはアメリカから来て名古屋を中心に1年間の留学を終え、アメリカへ帰ってから日本の山車とからくり人形をアメリカで再現する夢の事業に取り組んでいるそうです。郷土の伝統文化の国際的発展は嬉しく、期待されます。

NPO法人ミネルバ名古屋代表 千田靖子



シャルルビル＝メジェール 世界人形劇祭 フランスは首都パリからTGVで2時間半北へ上った小さな古都で、2年に1度開催される世界最大規模・密度の高い人形劇フェスティバル。

人形浄瑠璃芝居 太神三味線の伴奏で太夫(たゆう)が七色の声で物語を語り、人形が芝居を演じる。知立、上野間のからくり人形芝居がこれです。

あぶ

ひまわりホールから発信するシアター情報誌

Aichi Puppetry Center

浄瑠璃と人形が、美女伝説をこの世のものにして。身より仏の名こそ惜りけれ



愛知人形劇センターPresents「小町曼茶羅」(作・演出:木村繁)

Compagnie des Singes Hurlleurs & Mémoires d'Avenir「Le Soldat Antoine」(フランス&モロッコ)

特定非営利活動法人 愛知人形劇センター 〒460-8551 名古屋市中区丸の内3-22-21 損保ジャパン日本興亜名古屋ビル8F TEL 052-212-7229 FAX 052-212-7309 http://aichi-puppet.net/ MAIL:mail@aichi-puppet.net

愛知人形劇センター ひまわりホール情報誌 302 2017年秋号 発行:特定非営利活動法人 愛知人形劇センター 発行人:木村繁 編集人:たかはしいちげん デザイン:江利山浩二(KINGS ROAD) 編集:小島祐未子(常磐の編舞会)

©愛知人形劇センター ※本誌記事・写真・イラストの転載を禁じます。